

概 要
<p>第 25 回 市民と市長の対話ひろば ～もりりんと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：文化芸術センター（たからば）・手塚治虫記念館周辺のにぎわいづくり</p>
<p>日時：令和 8 年 5 月 11 日（月） 午後 2 時～午後 4 時 場所：西公民館 ホール 参加者：17 名 出席者：森市長 都市安全部 江崎部長 他 産業文化部 鈴木部長 他</p>
<p>《市長のテーマ説明》</p> <p>1. 趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝塚の象徴的なエリアである文化芸術センター（たからば）や手塚治虫記念館周辺の盛り上げ策について、市民から広く意見を募りたい。 ・市民の思いを反映し、コミュニティの核として、また市外からも人を惹きつける魅力的な場所づくりを共に考えたい。 <p>2. 対象エリアの現状と特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かつての宝塚ファミリーランドや宝塚ガーデンフィールズの跡地であり、市民にとって誇り高い場所である。 ・手塚治虫記念館は 1994 年開館。漫画の神様の精神（命の尊さ、自然愛）を伝える市直営の重要拠点。 ・文化芸術センター（たからば）は新しい文化創造の場。広場でのマルシェや多様な展示・ワークショップを開催。 ・文化創造館は 宝塚音楽学校旧校舎を活用。歴史的価値が高く、すみれミュージアムも併設している。環境面では、花のみち、宝塚大劇場、武庫川河川敷と連動した、宝塚らしい美しい観光・散策ルートがある。 <p>3. 宝塚市立文化芸術センター及び宝塚市立文化芸術センター庭園（たからば）に係る管理運営の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力の継承と創造： ファミリーランド等の歴史を継承しつつ、新しい文化を創る。 ・想像力の育成： 次世代の芸術家を輩出できるような土壌をつくる。 ・コミュニティの形成： 多様な人々が交流し、つながり続ける場所とする。 ・地域の活性化： 市の中心地の一つとして、経済や活動の拠点とする。 ・地域課題の解決への貢献： 観光、まちづくり、国際交流などの課題解決の拠点とする。 <p>4. 重点施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手塚治虫氏生誕 100 周年（2028 年 11 月 3 日）を大きなチャンスと捉える。 ・手塚治虫氏のルーツである宝塚を、漫画・アニメ・映像の聖地としてさらに盛り上げたい。 ・市民のコミュニティ活動を大切にしつつ、京阪神や全国から人が集まるような大きな

スケール感での発信を目指す。

5. 市民へのメッセージ

- ・予算に限りはあるが、市のネームバリューや市民の知恵を活かしアイデアを募集したい。
- ・現実的な制約に縛られすぎず、まずは大きなスケールでどういう場所にしたいかという夢やアイデアを自由に語ってほしい。

《対話》

1 参加者【文化芸術センターの活動内容と若者の地域活動拠点について】

- ・文化芸術センターのアクティビティが書道や絵画など静的なものに偏っている印象がある。ダンスや音楽、芸能などの動的なものも含まれるのか。
- ・今回のテーマは国のコンテンツ政策（クールジャパン等）への投資が背景にあるのか。あるいは、市として他に施策がないから消去法で決まったものなのか。
- ・中学校の部活動が地域移行する中、子どもたちが活動できるアクティビティを地域で受け入れる拠点にしてはどうか。

→市長

- ・定義は幅広く、音楽や音の出る活動も当然含まれる。センター自体は展示が主だが、隣接する文化創造館や屋外広場では音楽イベントが活発に行われている。
- ・国の政策に追随したものでも、消去法でもない。ファミリーランド時代から続く宝塚にとって大切な場所を再評価し、かつての活気を復活させたいという思いが起点である。
- ・部活動の地域展開については昨年から教育委員会等と連携して進めている。文化芸術センターを活動の場とするのは良いアイデア。市が主導するだけでなく、地域の方々が主体となって運営に関わってほしい。

2 参加者【市民の知恵と活力を活かした手塚治虫記念館の活性化について】

- ・地域活動（自治会長や民生委員、環境活動）の経験から、定年退職者やシニア層には大きな力がある。
- ・手塚治虫氏のマニアなど、特定の分野に強い市民を公募し、活動の中心に据えるべき。市はバックアップに徹し、彼らに権限を任せるとスタイルが望ましい。
- ・完全な無償ボランティアではなく、交通費程度の実費を支給することで、責任感と継続性が生まれる。
- ・市民有志が中心となり、子ども向けに漫画教室や漫画を描く会を無料で開催するなど、草の根の活動から広げていく。
- ・こうした市民主導の熱心な活動が話題になれば、現在第一線で活躍しているプロの漫画家たちが宝塚を応援しようと賛同してくれる好循環が期待できる。
- ・市民と共に歩む活動こそが、施設の活性化には不可欠である。

→市長

- ・先輩市民をはじめとする、幅広い世代の市民に活動・協力していただくことは非常に重要であると認識している。
- ・市内には素晴らしいスキルを持つ人材が数多くおられるため、そうした方々の力を借

りる仕組みづくりは大切にしていきたい。

3 参加者【宝塚大橋・南口エリアを含めた線での周遊と夜間活性化について】

- ・文化芸術センターなどの施設を単体（点）として捉えるのではなく、宝塚駅から宝塚南口駅までを一つの線として捉えたまちづくりをすべき。
- ・現在、宝塚大橋の川上側（大劇場側）は華やかだが、川下側は寂しい印象がある。宝塚南口駅側からも人を呼び込む仕掛けが必要。
- ・川沿いの樹木へのイルミネーション設置を提案する。日本人は光の演出に惹かれる傾向があり、広域（西宮・尼崎・神戸等）からの集客に繋がる。
- ・花のみちで行われている交通規制を夜間まで拡大したり、宝塚南口駅から宝塚大橋方面への道路を一部通行止めにして歩行者天国にするなど、回遊性を高める体制を整えてほしい。
- ・将来的に年間 100 万人の来訪者を目指すような、大きな目標設定が必要。

→市長

- ・宝塚ホテルが宝塚南口駅周辺にあった時代のように、橋を渡って大劇場へ向かう散歩道としての魅力は非常に高い。周遊という視点は非常に重要。
- ・現状、夜間の賑わいが少ないのは課題。現在は静かなサイクルにあるが、イルミネーション等で人流が増えれば、周辺での商売も活性化し、民間の参入も期待できる。
- ・商売の専門家がここでビジネスをしたいと思えるような、昼夜を問わず人が集まる環境づくりを目指したい。

4 参加者【公共施設の工事期間と官民連携の在り方について】

- ・西公民館のエレベーター工事に 3 ヶ月、空調工事に 6 ヶ月といった長期間を要している現状は、利用者（特に高齢者）にとって非常に不便である。
- ・民間企業であれば数日で完了できるような内容でも、市の発注や業者との関係性において時間がかかりすぎているのではないか。
- ・高齢者が階段を上り下りするのは転倒の危険もあり、利用者の実態に即して、もっと迅速に（例えば 3 日程度で）直せるよう動いてほしい。

→市長

- ・行政の工事は民間同士の契約とは異なり、公正性を期すために競争入札などの厳格な手続きが必要であり、特定の企業に便宜を図ることができない仕組みになっている。
- ・そのため、民間と比べると手続きや準備に時間がかかってしまうのが通例であり、この点は宝塚市に限らず公的機関としての難しさがある。
- ・行政と民間が、公正な関係性を保ちつつも、お互いの弱点を補い合えるような相互補完的な関係を構築していくことが、今後のまちづくりにおいて極めて重要である。

5 参加者【施設のアクセスの利便性と広域への情報発信（広報）について】

- ・駅からたからばへ向かう際、手塚治虫記念館前の信号の待ち時間が長く、道路を渡るのが不便であるという声をよく聞く。このアクセスの悪さが、人流を止めてしまう要因の一つになっているのではないか。
- ・素晴らしい展示やドラマのロケが行われていても、たまたまテレビやラジオで知る程

度で、市からの積極的な広報が届いていない。

・西宮市のように、会員向けの予定表送付など情報が向こうから届く仕組みが必要ではないか。

・専門家を招聘し、他府県などの広い地域からわざわざ人が集まりたくなるような、質の高い企画（コンテンツ）を打ち出してほしい。

➡市長

・信号の問題は、市内の南北を繋ぐ橋が少ないために周辺の渋滞が慢性化しており、車を優先せざるを得ない構造的な課題がある。

・人流が止まってしまうのは残念だが、都市計画全体の中で根本的な解決を目指していく必要がある。

・文化芸術センターの企画は、市ではなく市文化財団が主体となって行っている。

・広報については、近隣自治体との集客の奪い合いや、既存メディア（新聞等）での露出の難しさもあり、多額の費用をかけても届きにくい現状がある。

・単に人が集まるものを闇雲にやるのではなく、宝塚市民が大切にしている価値や街の雰囲気や街の雰囲気を反映したテーマ設定が必要。

・宝塚のこの雰囲気が好きだから、市民ではないけれど来たいと思ってもらえるような、コンテンツの整理と質の向上が重要だと認識している。

6 参加者【洗練された賑わいづくりと文化遺産の保存・食文化の向上について】

・他地域（軽井沢等）では団体を通じた対話が主だが、市長と市民が直接話せる場があることは素晴らしい。

・観光地として賑わいを求める際、過剰な混雑（オーバーツーリズム）を避け、宝塚のブランドにふさわしい洗練された賑わいのラインを見極めるべき。

・手塚治虫氏の作品や宝塚歌劇は、今や世界的なコンテンツである。インバウンド（海外客）をより意識した展開が必要ではないか。

・観光地としての食のレベルに物足りなさを感じる。食は人を集める大きな力になるため、もっと研究・強化してほしい。

・雲雀丘花屋敷などの美しい町並みや近代建築が壊されている現状がある。貴重な文化遺産を保護する体制を整えてほしい。

➡市長

・市民との直接対話は重視しており、今後も継続したい。

・宝塚は住宅地としての側面が強いため、無制限な集客は望んでいない。宝塚らしい文化（宝塚歌劇・手塚治虫氏等）を愛する固定ファンを大切にするような、質の高い賑わいを目指したい。

・宝塚歌劇がタイへ進出するなど、海外のファンコミュニティとの連携も始まっている。宝塚らしさを理解してくれる海外の方々に、その魅力を届ける取り組みは非常に有効だと考えている。

・食のポテンシャルは高い。市域の3分の2を占める北部に位置する西谷エリアの野菜や、希少な宝塚牛、牧場の乳製品など、高品質な食材がある。

・これら宝塚ならではの美味しいものをブランド化し、食文化として発掘・発信していきたい。

・旧安田邸の保存決定など努力はしているが、維持費の確保と、静かな生活環境を守りたい住民の意向、観光利用のバランスが非常に難しい。

・これらも宝塚らしさの重要な要素。維持のための経済循環と保存の在り方について、引き続き知恵を絞っていきたい。

7 参加者【地域の歴史的アイデンティティの継承と施設の運営方針について】

・小田原や姫路といった歴史文化都市と比較しても、宝塚は温泉、宝塚歌劇、手塚治虫氏と非常に多彩なコンテンツを持っている。しかし、文化芸術センターにおいて小林一三氏から始まる近代宝塚の成り立ちや歴史に関する展示・訴求が弱く、見えてこない。

・他都市のように、ボランティアが歴史を案内し、街のストーリーを伝える取り組みを強化してはどうか。

・愛称のたからばが、民間の中古品買取店のイメージと重なり、文化芸術の拠点としてふさわしいか疑問を感じる。より適切な名称があってもよいのではないか。

・施設の設立経緯には批判的な意見もあったが、現在このエリア全体にどれほどの公金を投じ、今後どのような予算規模で活性化を目指すのか。具体的な数字のイメージがあれば示してほしい。

→市長

・小林一三氏が温泉街のある宝塚に歌劇を作り、宝塚を目的地として発展させた近代史は非常に重要であり、展示のアイデアとして考えたい。

・お城がある街とは異なる、宝塚特有の雰囲気やらしさが何なのか、改めて突き詰めたいて考えている。

・人口減少時代において、維持費が増大し続けるような多額の公金投入は不可能であり、市の背丈に合った運営が必要。

・あえて現時点で具体的な予算の話をしていないのは、市がお金を出して解決するのではなく、まずはテーマ（宝塚らしさ）を明確にすることを優先しているため。

・明確なテーマに基づき、民間企業が投資したいと思えるような環境や機会を市が作っていくことが、持続可能な活性化の形だと考えている。

8 参加者【ロケーションを活かした質の高い屋外イベントと文化の裾野の拡大について】

・2年前に武庫川の河川敷で行われた平田オリザ氏関連の劇団による屋外公演（山月記）が、川風や夜景と相まって非常に素晴らしかった。

・その公演には市外からも情報を持った人々が集まり、投げ銭制度でありながら宝塚に来て良かった、文化のある街はいいなと強く実感させる質の高さがあった。

・現在の文化芸術センターの企画は、一部のファンには知られているが、広域からの集客力としてはまだ弱いと感じる。立地や宿泊施設を活かした、住んでいる人が誇りに思える企画を期待したい。

→市長

・河川敷などの屋外空間の活用は、宝塚のポテンシャルを活かす鍵になる。欧州では古代劇場を現代のオペラに活用するなど、屋外での芸術体験が日常にある。

・宝塚には、一流の芸術家からここで表現したいと選ばれるだけのネームバリューがあ

る。市文化財団とも相談し、レベルの高い表現者が集まるような仕掛けを考えていきたい。

有名な芸術家を呼ぶだけでなく、街の至る所でコンサートが行われたり、市民が日常的に表現を楽しんだりする裾野の広さも文化都市の重要な指標である。

・高度な芸術（頂上）と、市民の日常的な活動（裾野）の両方が、宝塚の背丈に合ったサイクルで回っていくような街を目指したい。

9 参加者【思想の深化とアートマーケットの創出、持続可能な文化都市の形成について】

・手塚治虫氏生誕 100 周年を単なる祝典に留めず、彼が描いた漫画の世界の奥深い哲学や思想のレベルにまで踏み込んだ展開を期待したい。

・単に物が売れる場所ではなく、批評が存在し、愛好家が納得して作品を購入し、自宅へ持ち帰ることで人生を彩るような真の意味でのマーケットを目指すべき。

・富岡鉄斎（清荒神鉄斎美術館）のような、東洋の伝統と近代化の狭間で葛藤し表現した質の高いコンテンツが宝塚には既に存在している。こうした歴史的・文化的深みを活用すべき。

・米国のサンタフェのように、多様な伝統が交わり、広場で日常的にアーティストが作品を販売するような高い目標を掲げ、時間をかけて文化を育てるべき。

・急激なイベント集客はキャパオーバーを招き、回収も難しい。志の高い人々が集まるコミュニティをゆっくりと形成することで、それに合わせて店やホテルなどのインフラも自然に整っていく。

・東洋の伝統から西洋文明の受容へと急変した日本の近代史を、宝塚という舞台でしっかりと表現していくべき。それは手塚治虫氏や小林一三氏の歩みとも深くリンクするはずである。

→市長

・手塚治虫氏の作品の根底にある文学性や哲学性は、多くの人々の心に響く重要な柱である。宝塚が一貫して大切にすべきコンテンツとして、現実的な形にしていきたい。

・芸術をいかに持続可能なビジネスモデルにしていくかは重要な側面である。一時的なイベントへの多額投資ではなく、街の背丈に合った形で自然に経済が回る仕組みを考えていきたい。

・時間をかけて文化を育てるという視点に賛同する。例えば、宝塚が誇る植木の街としてのオープンガーデンなどは、既に存在する素晴らしいコンテンツであり、こうした日常的な美しさをもっと大切にしていきたい。

10 参加者【街並みの統一感と憩いの空間（ガーデン・河川敷）の活用について】

・宝塚は非常にネームバリューがあるが、花のみち周辺の店舗に統一感がなく、若い人が入りにくい雰囲気のお店も多い。

・文化芸術センター（たからば）の庭園やガーデンハウスは非常にポテンシャルが高いが、あまり活用されていない。

・有名カフェの誘致やイベント時のみの限定ショップなど、観劇後のファンがゆっくり語り合えるような動線と場を作ってほしい。

・河川敷は素晴らしい散歩コースだが、日陰が全くない。夏場は暑すぎてすぐに帰らざる

を得ない。

・ヨーロッパの公園のように、木陰で休めるような環境作りはできないか。

➡担当部

・花の道周辺（セルカ等）は再開発ビルであり、震災前の市場から継続して営業している店主も多く、個別の交渉で店舗が決まるため、市が強制的にコンセプトを定めるのは現状難しい。

➡市長

・街のテーマを整理し、魅力的なショップが集まる好循環を作ることで、少しずつ街並みの質を変えていくことは可能だと考えている。

・文化芸術センター庭園にあるガーデンハウスで質の高いカフェがあれば、人が集まる。

・市が直接運営するのではなく、民間のリソースを活用し、お茶を飲みながら会話を楽しめる仕掛け作りを検討したい。

・ヨーロッパやオーストラリアのように木々が茂る河川敷は理想的だが、日本の河川管理（治水）の観点から、洪水の妨げになる樹木を新たに植えるのは非常にハードルが高い。一方で、河川管理者との兼ね合いも含め、何らかの工夫ができないかという視点は持っておきたい。

・現在は人流が減る負の循環にあるかもしれないが、魅力的なリソース（資産）を活かし、少しずつ人が増える好循環へ転換させていきたい。

・急激な変化は難しくとも、宝塚のブランド力を信じ、民間の力も借りながら一歩ずつ進めていく。

11 参加者【国際交流の新展開と宝塚らしさの再発見・言語化について】

・手塚治虫氏が築いた日本の漫画やアニメ文化を、ユネスコの無形文化遺産に登録するような運動を宝塚から起こしてはどうか。

・既存の姉妹都市（ウィーン等）だけでなく、武庫川のような美しい川の両岸に広がる街という共通点を持つ世界の都市と、ピンポイントで深い連携（バイラテラル）を築くのも面白い。

・専門家や市民が協力して委員会を立ち上げ、資料をまとめるなどの草の根の活動が国際交流の新たな視点になる。

➡市長

・非常に興味深い提案である。既存の国際交流がトーンダウンしている中で、新しい価値を見出す整理が必要。専門的な知見を持つ市民の協力は心強い。

・日本の川は片側に街が広がるケースが多いが、武庫川のように両岸に街がある景観は国内では珍しく、貴重な資産である。こうした宝塚ならではの地形の美しさを再発見し、交流に活かす視点は重要。

・阪神・淡路大震災前は阪神間モダニズムという言葉で地域の文化が語られていたが、現在はその機運が薄れている。芦屋や西宮などの近隣市とも連携し、この地域の文化を再考したい。

・宝塚歌劇が持つ文化の力は大きいですが、それだけではない宝塚らしさをもう一度きちんと言語化（言葉に）し、市外や海外に訴求していく作業が必要だと感じている。

・市内には清荒神清澄寺や中山寺といった歴史ある寺社仏閣も多い。一方で、多くの人が

惹きつけられるのは歌劇などの華やかな文化である。

・これらが共存する宝塚の独自の魅力を、小林一三氏が築いた阪急沿線の文化も含めて整理し、現代にふさわしい形で発信していきたい。

12 参加者【押し活の視点と手塚治虫氏生誕 100 周年に向けた展開について】

・現代の押し活（好きな対象を応援する活動）の熱量は凄まじく、コラボカフェなどの施策は強力な集客力を持っている。

・手塚治虫氏生誕 100 周年に際し、単一の店舗だけでなく、近隣の飲食店が共通のコンセプトで限定メニュー（パンやランチ等）を出すなど、街ぐるみの仕掛けを検討してはどうか。

・聖地として若い世代を呼び込むために、アニメーションスタジオの誘致や関連情報の拠点化といった視点も重要ではないか。

➡市長

・押し活が現在の重要なビジネスモデルであり、経済の強力なドライバー（推進力）になっているという認識は共通している。

・世界中にファンがいる手塚治虫氏の作品を、いかに今の若い世代の押し活と結びつけ、再発見してもらうかが知恵の絞りどころである。

・宝塚にはかつて宝塚映画製作所があり、数々の名作が生まれた歴史がある。映画館や制作拠点が減少している時代だからこそ、手塚治虫氏の作品（アニメ・漫画）とこの映像の歴史を掛け合わせ、新しい映像文化の形を模索していきたい。

➡担当部

・2028 年 11 月の生誕 100 周年に向け、市・地域・広域の諸団体が連携する協議会を 4 月 25 日に設立した。

・現在、手塚治虫氏の作品や人生をテーマにしたドラマ制作を放送局に働きかけるため、目標 100 万筆という大規模な署名活動を開始している。

・今後、協議会を通じて具体的な盛り上げ策を検討していくため、市民の皆様にも期待していただきたい。

13 参加者【宝塚の多様な文化の集合と拠点ごとの独自性について】

・宝塚は一言で定義できない村（コミュニティ）の集合体（ユナイテッド・ヴィレッジ）である。

・花のみち周辺の文化（歌劇・出待ち文化）、だんじりやお神輿がある伝統文化、さらに農村部、下町、ハイソサエティな住宅地など、非常に複雑で多様な要素が共存している。

・南部から西谷（北部）へ移住すると外国に来たと感じるほど文化が異なる。この一言で言い表せない多様性そのものを宝塚の正体として、そのまま楽しむべきではないか。

➡市長

・市全体が多様な文化の集まりであるという指摘は、行政としてもその通りだと感じる。

・一方で、今回議論の舞台となっているたからば（文化芸術センター周辺エリア）などの特定の拠点においては、多様性の中に埋没させず、あえて尖ったテーマを抽出して打ち出すことで、街としての訴求力を高めたいと考えている。